



かすみがうら市

まとめ 中心市街地公共施設検討

■まとめ

1. 施設での活動について

本ワークショップを通じて得られた市民の意見・アイデアをもとに、新しい施設の在り方や機能の検討等に向けて、実現可能な活動の方向性を整理しました。

本のある空間で市民が「創る・つなげる」活動

- ・自由に触れられる本や資料が知との出会いや探究を支え、市民活動の質・ひろがり・継続につながる
- ・市民が主体となって施設の一部や活動を創り、まちのシンボルや文化をつなげていく



「活動」アイデア：「楽器集め・音楽練習会・発表会」「ピザ窯制作・料理教室・市民食堂」など

多世代が参加できる、かすみがうら市の新しいイベント

- ・子どもから大人まで、幅広い世代がみんなで楽しめる市の新しいイベントの企画・運営を行う活動
- ・中高生が企画・運営を行い、市内学生のつながりの創出や、中高生を中心とした多世代の交流をはかる



「活動」アイデア：「運動会」「音楽祭」「お祭り」「読書会」など

施設の枠を超えた、かすみがうら市内をつなぐプログラム

- ・施設の外にも活動の場を広げる、新しい施設をかすみがうら市全体をつなぐ「まちの拠点」とした活動
- ・まちの魅力や、新しい価値を市民がここからひろげていく



「活動」アイデア：「ツアー（グリーンツーリズムなど）」「職業体験」「歴史研究」「運動会」など

■まとめ

2. 施設づくりのコンセプト

コンセプト案

つながり、めぐる、まちのリビング

(仮)

まちと共に育つ知の拠点

かすみがうら市の中心市街地に複合施設を整備し、地域コミュニティの強化や市民の多様なニーズに応える施設となることへの実現に向けて、本ワークショップで出された「活動」アイデアをもとに、コンセプト、イメージをご提案します。

■まとめ

2. 施設づくりのコンセプト

コンセプトイメージ案

 「手芸」「休憩」「読書」「学生」「多世代」×「交流」のアイデアから…

ふらっと立ち寄り学びが生まれる、みんなの居場所

- ・誰もが気軽に、当たり前のように訪れ、思い思いの時間を過ごすことができる
- ・本や展示・企画によって自然と生まれる対話から、新しい発見・興味・学びに出会う

 「料理教室×市民食堂」「お祭り」「大会」「運動会」「音楽祭」などのアイデアから…

市民がつくり、育てる、まちの創造拠点

- ・市民が自らの手で活動を生み出し、まちを育てていく
- ・まちに眠る知恵やアイデアを掘り起こし、共有しながら、新たな価値を生み出す拠点

 「まちの未来を話し合う」「地域の歴史を研究」「多世代交流」などのアイデアから…

世代を超え、文化が巡る、ひらかれたつながり

- ・小さな子どもから高齢者まで、多様な市民が関わり合いうちで
知の継承や文化の循環を重ね、かすみがうら市の未来をつくりあげていく

■まとめ

3. 施設の機能イメージ

4つの機能について、コンセプトに沿ったそれぞれの使用イメージをご提案します。

〈図書機能〉

知に出会う・学びがめぐる・気軽に本や人に出会う場所

- ・本を読むこと、買うことが「知と出会う体験」として市民にひらかれている。本が人やまちを動かす起点となる場
- ・本から興味を得た人がそのまま交流・体験に参加できる
- ・活動から生まれる“問い”に本がそっと寄り添う場
- ・気軽に読書×雑談を楽しめる空間。「語る会」「読書会」などが自然に生まれるあたたかな雰囲気

〈多世代交流能〉

市民がつながり、世代を超えて共に活動できる場所

- ・年齢・立場を気にせず、自然と声を掛け合えるリビング
- ・「勉強会」「相談会」が生まれる、市民の支え合いの場
- ・「音楽」「料理」などを通して世代を超えた共通の話題・活動が生まれる
- ・普段は「居場所」や「休憩」「交流」で穏やかに過ごす人も
- ・イベント時は「お祭り」「音楽祭」が開かれ、賑やかな日も

〈ユース活動機能〉

若者の挑戦を支える居場所

- ・中高生・大学生が自らの企画を実現できる拠点
- ・「学童のように」友人と集い、それぞれの勉強や教え合い、息抜きをしながら気楽に過ごせる居場所
- ・「職業体験」「サービス開発」など地域と接点を持ちながら学び・実践を繰り返す場
- ・そばにいる多世代、多機能が豊かな視点や発想を支える

〈子育て支援機能〉

子育て世代を支え、育ち合いを生む場所

- ・子ども連れでも気軽に過ごせる居場所＋サポート空間
- ・親子が市民の活動に安心して参加できる場
- ・保護者同士の交流や情報交換ができる
- ・中高生との関わりや、市民のボランティアなど、市民みんなで支える仕組み
- ・絵本の読み聞かせや親子のまなびにつながる